

7月29日(月)発行

15
YEARS
MUSIC CONTACTS SYMPHONY HALL

ミューザ開館 15 周年!

ほぼ

日刊サマーミュージック

Hobo Nikkan Summer Muza

朝刊



© 青柳 聡

詩情あふれる
ロシアン・ナイト!

【7/28:新日本フィルハーモニー交響楽団】

夏祭り二日目はロシアン・ナイト。錦糸町のすみだトリフォニーホールを拠点に、しなやかな音を奏で始めた上岡敏之と新日本フィルハーモニー交響楽団(NJP)が登場。ソロはミューザ川崎シンフォニーホールのホールアドバイザーを務めるピアニスト小川典子で、おなじみラフマニノフの協奏曲第2番と、いつもとちょっと異なる選曲も粋なプロコフィエフのバレエ音楽「ロメオとジュリエット」の二本立て。

ドイツのオペラハウス歴が長く、ピアニストとしても知られる上岡

敏之と、弦や木管に人を得ているNJPは、私たちが漠然と思い描く気宇壮大なロシア音楽の世界を、ひらりと乗り越えたかのような詩情あふれる響きを創った。点や線で示す幾何学的な音楽ではなく、美やロマンへの憧憬(しょうけい)に満ちた妖しいまでの音彩がホールを満たした、と評論家ふう

に述べておく。単なる弱音ではなく、響きにエアを含んだソット・ヴォーチェの効果も素晴らしい。しかしそうした上岡とNJPの個性的アプローチが、客席にほんの少し戸惑いを授けたかも知れない。

典子は、ピアノ協奏曲第2番と同じハ短調のアンコール「エチュード音の絵 作品39-1」で魅せた。くつきりとした表現を愛で、聴き手にいつも何かを刻印する彼女のアーティスト気質とアレグロ・アジタートの楽想が呼応。ラフマニノフのピアノ協奏曲第3番を聴きたくなった。余談の余談だが、このコンチェルトは「ピアニスト」上岡敏之のレパートリーでもある。フェスタサマーミュージックは聴き手の夢を育む。今日もまた客席に。

(奥田佳道/音楽評論家)



終演後、サイン＆ミュートンとともに。
上岡敏之(左)と小川典子(右)。

来場者の声

弱音の美しさ、音の弾きおさめる瞬間に心奪われました。フルートのジュリエット、リハでも聴きましたが、アンコール!と叫びたかったです。とても美しかったです。小川典子さんのラフマニノフも、迫力があって良かったです。(川崎のYoko) / 上岡さん・新日本フィルは絶好調ですね。プロコフィエフ、途中から涙が止まりませんでした。(40代・こやす) / 小川のダイナミックなピアノと上岡のしなやかなタクトに導かれた包容力のあるオケがマッチして素晴らしいラフマニノフだった。とても立体的なロメオとジュリエットで、音がダイナミックに立ち上がり、瞬時に繊細なピアノになる。対比が素晴らしかった。(60代・小僧さん) / はじめて川崎のミューザに来ました。すばらしいホールにびっくり。聴きたくてたまらなかった小川典子のピアノを聴くことができ新日本フィルのオーケストラもすばらしく至福の時間を過ごせました。(50代・じゅんこカンタービレ) / 公開リハ時からおもしろく、ホールに合わせた音の響きを瞬時に感じて、位置によって聴き比べた様子を楽団員の方たちにアドバイスなさる上岡さんが印象的でした。(30代・sakura)

神奈川フィルハーモニー管弦楽団 ～名ギタリストも参戦のスペイン・プロ～

7/30(火) 15:00開演(11:00公開リハ開場/14:30本開場) ミューザ川崎シンフォニーホール



指揮/川瀬賢太郎



ギター/渡辺香津美

- ボッケリーニ(ベリオ編): マドリッドの夜警隊の行進
- ロドリゴ: アランフェス協奏曲
- シャブリエ: 狂詩曲「スペイン」
- ファリャ: バレエ音楽「三角帽子」第1&第2組曲

リハ 11:30～公開リハホール(自由席)
※途中入退場不可。終了後、客席をクローズします。

S,A,B席 計200枚程度
S席4,000円
A席3,000円
B席2,000円
U25(小学生～25歳): 各席半額

- ◎ 電話予約: なし
- ◎ 4階カウンター/10:00～13:30販売
- ◎ 当日券カウンター14:00～販売
- ※13:30～14:00の間は販売を休止いたします

当日券あり

